

## はじめに

淡路市は、平成17年に旧5町（淡路町、一宮町、津名町、東浦町、北淡町）が合併して誕生し、本年で10周年を迎えます。

本市は瀬戸内海最大の島である淡路島の北部に位置しており、東は大阪湾、西は播磨灘に面し、市域の中央には、妙見山を最高峰とする山地が南北に走っています。先人たちは、この海に囲まれた環境のなかで、島特有の歴史文化を築いてきました。国生み神話を生んだ人々、海運と軍略の要衝としての島、景勝地として多くの人たちが来訪した地、豊かな恵みにあふれた御食国、受け継がれるものづくりの技、常に生活とともにあったさまざまな祈りのかたち、大地の胎動と島の自然。これら魅力あふれる歴史文化は、市域の有形・無形の指定文化財だけでなく、地域に遺されたさまざまな歴史文化遺産を通じて今の私たちに継承されてきました。

しかしながら、生活様式の変化や、急速に進む少子高齢化、都市部への人口流出等により歴史文化遺産を守り伝えていく地域社会が失われつつあるなかで、保全が困難となり、存在自体が忘れられ、継承の危機に瀕しているものもあります。

このようななか、本市では市民とともに歴史文化遺産を再発見・再認識し、市固有の歴史文化の価値を共有し、ともに守り、育み、磨きをかけて、まちづくりに活かしていくために、歴史文化遺産を活用するマスタープランとして「歴史文化基本構想」を策定いたしました。指定・未指定にかかわらず、地域の歴史文化遺産を保存・活用し、地域の歴史文化・風土を見直すことで、個性を活かした地域づくりの一助となりましたら幸いです。

最後になりましたが、本構想の策定に際し、ご検討いただきました淡路市歴史文化基本構想等策定検討会の委員の方々をはじめ、アンケートにご協力いただきました皆様ほか、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

平成27年3月

淡路市教育委員会  
教育長 高田 貴代志